



ILSI

International Life
Sciences Institute
Japan

ILSI Japan ERA勉強会

遺伝子組換え作物の生物多様性影響に関する現状と展望
～遺伝子組換え作物のデータトランスポートビリティについて～

開会の挨拶およびILSIの紹介

特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構
International Life Sciences Institute Japan (ILSI Japan)
バイオテクノロジー研究会
名誉会長 橋本 昭栄

International Life Sciences Institute (ILSI) の紹介

ILSI - Global Partnerships for a Healthier World – Human health and well-being and safeguards the environment



ILSI at a Glance

15 entities worldwide

70 scientific publications

152 workshops, conferences, &
scientific meetings

38,000 science videos on
YouTube

103 employees

(2019)

ILSI

ILSI (International Life Sciences Institute) は、**1978年** アメリカ (ワシントンDC) で設立された**非営利団体**。

ILSIの理念：**Benefit Society** (社会に資する) **健康、栄養、安全、環境**に関わる課題を科学的視点で基礎研究から実践活動まで。

グローバルな非営利団体。ワシントンの本部と世界の**15の独立した支部**で活動。**世界で約400社** (2019年) の企業会員から構成。

情報の提供、意見具申を実施。科学に基づく国際的な行政の枠組みづくりに貢献。*)

*) 具体例：CODEX

ILSI Japan

本部設立3年後に最初に設立された海外支部(**1981年**)

健康、栄養、安全、環境に関わる課題解決を実践。
研究会、部会、委員会を中心に研究、調査活動を国内外で実施。

食品リスク研究部会、食品微生物研究部会、栄養研究部会、
バイオテクノロジー研究会、国際協力委員会、CHPなどの活動。

活動の成果は、適時、報告会、セミナー、シンポジウム、モノグラフ、
報文等で発表。



ILSI Japan の役員 – 理事の半数以上はアカデミア

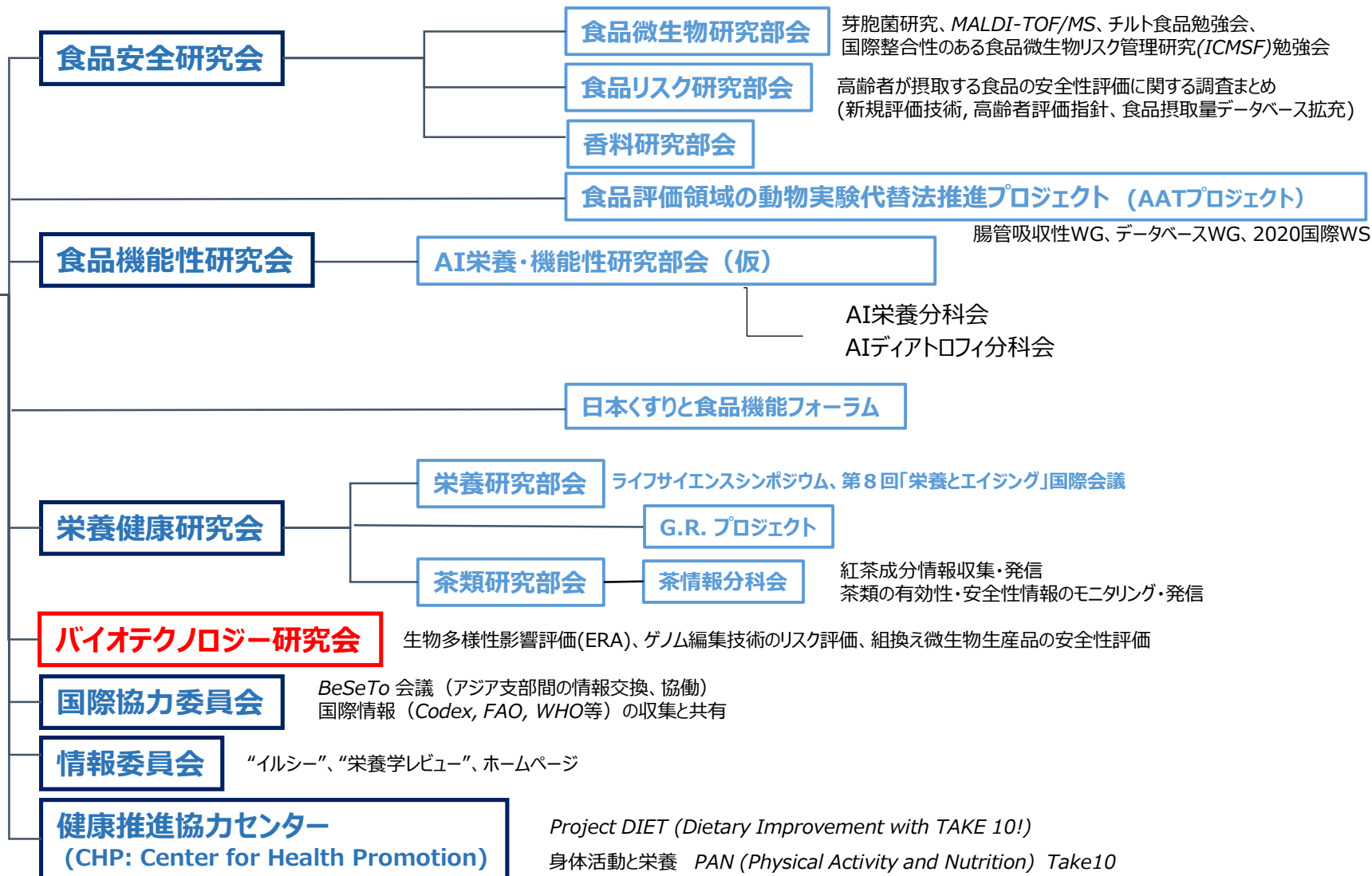
2020年2月25日現在

会長 Chairman	宮澤 陽夫 Teruo Miyazawa, PhD.	東北大学 未来科学技術共同研究センター (NICHe) 教授 Professor Emeritus, Tohoku University
理事長 President	安川 拓次 Takuji Yasukawa	花王 (株) エグゼクティブ・フェロー Executive Fellow, Kao Corporation
副理事長 Vice President	桑田 有 Tamotsu Kuwata, PhD.	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 教授 Professor University of Human Arts and Science
副理事長 Vice President	谷口 茂 Shigeru Taniguchi	(株) 明治 常務執行役員 研究本部長 研究戦略統括部長 Executive Officer, Meiji Co.,Ltd.
副理事長 Vice President	坂田 隆 Takashi Sakata, PhD	石巻専修大学 理工学部 教授 Professor, Ishinomaki Senshu University
副理事長 Vice President	阿部 文明 Fumiaki Abe, PhD	森永乳業 (株) 執行役員 研究本部 素材応用研究所 所長 Executive Officer, MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD
理事 Board member	阿部 圭一 Keiichi Abe, PhD.	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事 Director, National Institute of Health and Nutrition National Institute of Biomedical Innovation, Health and Nutrition
理事 Board member	岩元 睦夫 Mutsuo Iwamoto, PhD	鹿児島県大隅加工技術研究センター Kagoshima-Osumi Food Technology Development Center
理事 Board member	木村 毅 Takeshi Kimura, PhD.	味の素 (株) アドバイザー Adviser, AJINOMOTO CO.,INC.
理事 Board member	清水 誠 Makoto Shimizu, PhD	東京農業大学 応用生物科学部栄養科学科 教授 Emeritus Professor, The University of Tokyo, Professor, Tokyo University of Agriculture
理事 Board member	中江 大 Dai Nakae, MD,PhD	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 教授 Professor, Tokyo University of Agriculture
理事 Board member	松山 旭 Asahi Matsuyama, PhD	キッコーマン (株) 取締役常務執行役員 研究開発本部長 Member of Board, Kikkoman Corporation
理事 Board member	森川 晃好 Teruyoshi Morikawa	サントリー食品インターナショナル (株) 執行役員 R&D部長 Executive Officer, SUNTORY BEVERAGE & FOOD LIMITED
監事 Secretary	守田 稔 Morita Minoru	森永製菓 (株) 研究所 健康科学研究センター センター長 General manager, MORINAGA & Co.,Ltd
監事 Secretary	山田 雄司 Yuji Yamada	山崎製パン (株) 執行役員 中央研究所所長 Executive officer, Yamazaki Baking Co.Ltd

ILSI Japan 研究活動組織

53会員企業（4研究会、2委員会、1センター、1プロジェクト、1フォーラム）

総会
理事会
事務局





バイオテクノロジー研究会の目的

バイオテクノロジー応用食品・作物等の安全性・活用に関する調査研究を行い、国際的な調和を図りつつ、科学的な視点で情報提供

- 遺伝子組換え作物の環境安全性評価 (ERA プロジェクト)
- ゲノム編集技術の研究・開発の国内外の動向
- 導入遺伝子により産生されるタンパク質の安全性評価
- 遺伝子組換え技術を利用して生産された高度精製品 (食品、添加物) の安全性評価
- 遺伝子組換え食品の表示を担保する分析法 等

ILSI Japan バイオテクノロジー研究会のこれまでの歩み

— ワークショップ、勉強会 **1988年～2005年** —

	開催年	カテゴリー				
		ERA	Food/Feed	Detection method	Labeling	NBT
ILSIバイオテクノロジー国際セミナー —新技術利用発酵食品開発の基礎と社会的評価	1988		○			
「バイオ食品-社会的受容に向けて—」国際シンポジウム	1993		○			
ILSI Japanバイオ討論会 歩きはじめたバイオ食品 バイオ作物利用の立場から	1996		○			
遺伝子組換え食品の表示のあり方(食品表示懇談会遺伝子組換え食品部会報告)	1999				○	
バイオテクノロジーと食品安全シンポジウム: <u>FAO/WHO Symposium on Biotechnology and Food Safety</u> Codex 部会開催時	2000		○			
ILSI Japanシンポジウム 遺伝子組換え食品 安全性を確認するためにどんな試験をしているのか	2000		○			
シンポジウム 遺伝子組換え食品 どのように表示されるのか①	2001				○	
シンポジウム 遺伝子組換え食品 どのように表示するのか②	2001				○	
シンポジウム 遺伝子組換え食品 安全性を確認するためにどんな試験をしているのか	2001		○			
ILSI Japanシンポジウム 植物バイオテクノロジーの将来	2001		○			
ILSI Japanシンポジウム 遺伝子組換え食品 安全性を確認するためにどんな試験をしているのか	2001		○			
ILSI HESI/ILSI Japan タンパク質の <u>アレルギー誘発性</u> に関するワークショップ	2003		○			
「食物アレルギー」ワークショップ	2004		○			
遺伝子組換え作物 <u>検知技術</u> 国際ワークショップ	2004			○		
遺伝子組換えによって栄養改善された食品および飼料の栄養ならびに安全性評価 ワークショップ	2005		○			

食品安全性評価



ILSI

International Life
Sciences Institute
Japan

ILSI Japanバイオテクノロジー研究会のこれまでの歩み

—ワークショップ、勉強会 2006年～2019年—

	開催年	カテゴリー				
		ERA	Food/Feed	Detection method	Labeling	NBT
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する <u>国際ワークショップ</u>	2006	○				
第2回遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する <u>国際ワークショップ</u>	2007	○				
ポストISOワークショップ「GMO検知技術の国際動向」	2010			○		
日韓CERAシンポジウム「低暴露時でのGM植物の環境リスク評価」	2011	○				
遺伝子組み換え作物の環境安全性評価に関する国際的動向	2012	○				
輸入目的の遺伝子組換え作物の環境安全性評価 <u>国際ワークショップ</u>	2013	○				
植物の新育種技術に関するワークショップ：規制面からの考察および検討	2013					○
タンパク質のアレルギー誘発性評価に関する国内外最新の動き	2014		○			
NBTに関する国際動向のワークショップ開催	2014		ERA			○
農業分野におけるゲノム編集技術利用に関するワークショップ	2015					○
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価のあり方に関する <u>国際ワークショップ</u>	2016	○				
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価のあり方に関するフォローアップ勉強会	2016	○				
日本並びに海外におけるゲノム編集技術の農業分野への利用-現状と未来	2017					○
遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シークエンサーの活用に関する勉強会	2017			○		
遺伝子組換え植物の生物多様性影響に関する勉強会	2018	○				
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する <u>国際ワークショップ</u>	2018	○				
高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方に関するワークショップ	2019		○			
「日本におけるGM作物のERAの歴史」林健一先生記念講演	2019	○				
ISO/TC34/SC16 総会ポスト国際ワークショップ	2019			○	○	

ゲノム編集

本日のILSI Japan ERA勉強会の目的

- 日本ではカルタヘナ法制定から**17年**が経過して
 - 生物多様性影響評価 (ERA) を経て一般開放系利用を承認された遺伝子組換え作物が**180**系統以上
 - より効果的なERAを行うため、蓄積された知見に基づきERA手法の見直しがなされてきた



- 科学的なERAをさらに推進することを目的とする
 - 日本におけるこれまでの隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関する取り組みを振り返る
 - ILSI Japanバイオテクノロジー研究会が発表した論文を紹介する
 - 意見交換とまとめ